

平成 22 年度

事業所名 : グループホーム ふじのかわ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200152		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム ふじのかわ		
所在地	〒027-0029 岩手県宮古市藤の川11-5		
自己評価作成日	平成 22年 7月 2日	評価結果市町村受理日	平成 22年 10月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390200152&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成22年7月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

宮古市中心部から少し離れた高台に開けた団地の中にあるグループホームふじのかわ。2階建ての民家を改修したホームです。和洋室両方の居室があり、広さも6畳、8畳、10畳があり「自分の家」という雰囲気です。天気の良い日には宮古湾が見え、特に2階からの眺めはとてきれいです。階段の危険要因を工夫・声掛けで対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、団地内の最も高台にある2階建ての民家を改修した施設である。二階の居室からは宮古湾の素晴らしい海景色が眺望できる。階段を利用するため安全という面で気遣いを行っているが、これを日頃のリスクマネジメントの取り組みにうまく活かしている。また開設して4年目であるがホームの地域の理解と交流を図るため、管理者をはじめとして自治会や地域活動等に積極的に参加しているほか、近隣に働きかけて関係づくりに努めており、その効果がでてきている。なお、管理者は、広報紙「グループホームふじのかわ」の地域への配布や、高校生によるボランティア支援の活用、運営推進会議の活発化、地域の協力隊の設置など、様々な活動展開を模索しており、当ホームが地域に馴染み、かつその担う役割の今後に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム ふじのかわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時、月1回のカンファレンスにおいて、入居者1人ひとりの出来る力の発揮、状態に応じたケアと安全な生活の支援を心掛け、理念の実践につなげるよう努力している。	民家を利活用したホームの特性を活かしながら、「その人らしさを大切」にし、「不安のない暮らし」の支援をするとの方針のもと、その具現のため、日々のミーティングなどで話し合い、安心・安全を意識したケアに努めている。	地域密着型のサービスとして地域の中でその人らしく暮らし続けるために、「地域」への視点を加味した理念の見直しの意向を持っているが、今後の取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入しており、回覧板のやり取りや総会・地区大掃除への参加、子供会の廃品回収への協力、ご近所の方々に避難訓練に参加していただいたりとの日常的な交流に努めている。	地域の自治会に加入し、地域の一員として総会や様々な地域活動等に積極的に参加している。また、ホームは高台の新興団地内にあるが、ご近所を訪問等して、交流の拡大に努めており、今後は、ホームの協力隊を作りたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会総会にてグループホームについて、また認知症高齢者についての説明を行っている。避難訓練時にも参加したご近所の方々にも説明しており、理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動や取り組み、問題点等について話し合いを行い、ご意見やアドバイスをいただいている。要望があれば、解決・実現に向けて代表者等に働きかけを行っている。	会議は、活動報告のほか、避難訓練の際の近隣の方々の支援要請等の他、平成22年度の取り組み目標、運営推進会議の目的、利用料金の支払い方法などの活発な意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者へ広報や案内文書等を届けに伺い、ホームの様子を伝えている。また、福祉事務所当の関係機関とも協力関係作りに努めている。	市町村とは広報や書類等の届出の際にコミュニケーションを深めているほか、メールや電話等で情報交換している。また、介護以外の福祉問題でも関係部署に相談するなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループ内の勉強会に参加し理解を深める事で身体拘束をしないケアの実践に努めている。また、玄関の施錠は一般家庭と同じ、夜間の戸締りのみとしている。	職員は勉強会等で身体拘束の弊害を理解しており、身体拘束をしないケアを実施している。なお、現在、「言葉による拘束」に注目し、法人内の5グループホームでマニュアル作成に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループ内の勉強会に参加して、学ぶ機会を設けている。また、虐待につながるような声掛けがないかカンファレンスで話し合い虐待が見過ごされないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修を行う予定がある。現在、制度利用者はいないが、今後必要と判断されるケースがあれば速やかに関係機関へ連絡して活用出来るよう支援に努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規利用契約時には、入居前に利用料金やその他の事項についても十分に説明し、不安点・疑問点の解決を図っている。改定時にもご家族1人ひとりに十分に説明して理解と納得を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置している。また、ご家族の面会時をお話しを伺う機会として捉え、ご意見や要望を伺う機会としている。	運営推進会議で家族から利用料金の支払方法の改善提案があり検討しているほか、家族の訪問時や、家族への「お知らせ」版を利用して意見や要望を聞いて運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催する業務会議、毎日の申し送り時、2ヶ月に1回の個人面談を職員からの意見・提案を聞く機会としている。その他、毎日のコミュニケーションも活用している。	業務会議やスタッフとの個人面談などの機会を通じて、研修への参加打診など、職員の意見、要望などを聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談時には共通認識した個人目標目標について達成のためのアドバイスや達成できている部分を伝えてやりがいを感じ向上心を持って働けるよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム独自、グループ内研修の他に、職員1人ひとりのレベルに応じた研修に参加出来るように配慮している。また、訪問看護との合同勉強会は職員の希望するテーマに沿って開催する予定である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内のグループホームや岩手県GH協会沿岸北ブロックの研修のほかに沿岸北ブロックの合同食事会を通じて交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず面談を行い、ご本人の不安や要望を把握する事に努め、顔なじみになってから入居出来るよう関係づくりに努めている。アセスメントにはセンター方式を取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と同じように面談を行い、ご家族の不安な点や要望について伺い、関係づくりに努めている。アセスメントにはセンター方式を使う事を伝え、ご理解とご協力をいただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在、一番困っている事、心配な事等を伺ったうえで今、何が必要なかを把握して、ご本人、ご家族の意向に沿った支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔からの習慣や風習等に関しては職員が教えていただいたり、逆に花の手入れなどのアドバイスを職員が行う事もある。また、共同で作業を行い、感謝の言葉を忘れないよう関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の写真入りのお知らせの郵送、2ヶ月毎のホーム広報の発行などでご本人の様子をお知らせすると共に、必要時には協力を依頼して職員と共にご本人を支える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から同意をいただき、姉妹への定期的な面会を担当ケアマネと連携して行ったり、夫への手紙を書く際の支援を行う等、これまでのなじみの関係を継続させる支援を行っている。	出来るだけ家族等との関係を途切れないようにするため、利用者が家族に手紙を出す支援をしたり、利用者の姉妹や馴染みの美容室に対しホームへの来訪を依頼するほか、自宅訪問やなじみの海岸に出かけるなど、様々な支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がお互いの居室を訪問したり、声を掛け合い手助けしあう様子が見られる。気の合うかた同士で会話や歌を楽しむ等の場面が見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人の状態や必要に応じて出来る限り相談に応じたり、支援していく事を伝え、フォローに努める		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用して生活歴や思いや希望の把握に努めている。ご本人の表情や行動から察するように努め、その人らしく生活出来るよう支援している。	入居時に家族から思いや希望を聞いているほか、利用者の日常生活を通じた会話や表情、行動の観察の中から、本人の意向の把握に努めている。なお把握困難な場合は、利用者本位の視点でその把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から生活歴や「なじみ」などの聞き取りを行い把握に努めている。ご本人からは何気ない会話の中から聞き取るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やセンター方式アセスメントで得た情報をカンファレンスで話し合い、全職員が入居者1人ひとりについて共通認識出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式アセスメントで把握した課題、ご本人・ご家族の意向や要望をカンファレンスで話し合い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	夜間不眠の方や、不安のため徘徊する方に対しては、カンファレンスやモニタリングを職員間できちっと行い、話し合いながら適切に対応することで、一定の効果が現れるなど、様々な工夫しながらプラン作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアやご本人の些細な言動を気付き日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族の状況の変化に応じてニーズに対応し支援出来るよう努めている。希望があればご家族の宿泊にも対応出来るようにしている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の高校のボランティアサークルの訪問(月2回)を受け入れている。入居者の方々はゲームや歌などの活動を通じ、生き生きとした表情で楽しんでいる様子が見られている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはホームで通院対応しているが希望により家族対応の方もいる。状態変化時には、ご家族にも通院同行を依頼している。必要時には主治医への文書での情報提供やご家族への受診結果報告も行っている。	医療受診は、基本的に職員が付添いながらかかりつけ医を利用している。受診結果は家族に報告するほか、毎月の「お知らせ」版で通院予定の医療機関名と通院日を知らせ、適切な医療の確保と家族の安心を支援している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、24時間対応可能である。また、週1回の訪問日にはホーム職員からの入居者の状態やケアについてのアドバイスを受けたりしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者との情報提供・情報交換に努めている。また、場合によってはご家族と病院関係者の仲介役として支援していくこともあり安心して治療できるよう関係作りに努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階でご本人・ご家族の意思確認を行っている。ホームで出来る事、出来ない事を説明してご理解をいただき、ご本人の状況に合わせながら住み替え等も検討し、関係者と協同での支援に努めている。	入居契約時にホームとしての重度化及び看取りに対する考え方を説明し、終末期をどこで迎えたいかや、利用希望の医療機関などについて、本人と家族の意向を確認している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループ内の救急講習に定期的に参加して実践力を身に付けるよう努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施して消防署・ご近所の方にもご協力いただいている。地震・火災の報道でもその都度申し送り時に避難経路や体制について話し合い、意識付けを行うよう努めている。	防災計画を策定しており、避難訓練は、夜間想定も含め年2回行っている。自治会や近隣住民の非常時の支援をお願いしており、訓練参加には少しずつ増えてきている。 火災などの災害の発生に備えて、地域との密接な相互協力体制を築いておく必要があり、さらなる働きかけに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者1人ひとりの生活歴や性格を把握し、職員で共有しその時の気分を察し、状態に応じた声掛けや対応をするよう努めている。	人生の先輩として、また自尊心や誇りを損ねることがないように例えば、トイレ誘導では、何気ない声掛けなどを行い、その時々のお気分・表情・態度などに注意し、心配るケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員1人ひとりが日常生活の些細な場面でも、入居者が自己決定できる、または希望を表せるような声掛けをするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のその時の気分や状態を察して、出来るだけその日のペースに合わせて生活出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や、今までの習慣であったおしゃれが続けられるよう声掛けや一部介助を行う事で、その人らしい生活が継続出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の出来る力に合わせてテーブル拭き、下ごしらえや盛り付け、後片付けを一緒に行なっている。食事中もその日のニュースや昔話等、会話も楽しめるよう支援している。	利用者の嗜好を献立に活かすほか、一緒に食材を購入したり、食事の準備や後片付けを行っている。食事は、職員も利用者と同じテーブルを囲み会話をしながら、楽しくしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表や食事量チェック表を活用して入居者1人ひとりの食事・水分量を把握している。また、各テーブルに職員と一緒に座りバランスよく摂取出来るよう声掛けに努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを行なうよう声掛けを行なっている。ご本人の出来る力に合わせて、出来る部分を行なっていただき、出来ない部分を介助するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して排泄パターンや間隔の把握に努め、必要に応じてさりげない声掛けで誘導を行なう等、自分からトイレに行くように努めている。	職員は、利用者の排泄パターンを把握しており、時間を見計らって誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護職員と認知症高齢者と便秘の関連性について勉強会を行った事がある。起床時の冷水提供や腹部マッサージの声掛け等、予防対策に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来るよう準備しており、入浴時間は午後には設けている。一度拒否があっても職員を変えたりタイミングを見計らって再度声掛けする等、個々にあった支援に努めている。	毎日入浴できるようにしており、風呂好きの人、入浴に気乗りしない人それぞれにタイミングを図りながら声掛けをしている。入浴介助しながらの会話は、利用者の思いや希望把握に繋がることから風呂での会話を大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて適度に休息を取り入れるよう支援している。また、夜間は温湿度や明りにも配慮して安眠出来るよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容・注意事項が入居者個別に見やすい場所に保管してある。処方変更時等は申し送りを徹底して状態観察に努め、症状の変化に早期に気付くよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム行事やドライブ・ボランティアの訪問受け入れの他に生活歴を活かした草取りや家事など、その方の出来る力を活かした役割を設けるなど、張り合いを持って生活出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出したい時の付き添い、ドライブや買い物への外出など体調に応じてホーム外に出掛けられるよう支援している。必要時には、ご家族にも協力していただき支援するよう努めている。	利用者の意向に沿いながら散歩、ドライブ、買い物等をしている。家に帰るといって外出する方には、事故にあわないよう背後から見守りながら支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望にて自己管理している入居者もあり、買い物同行等の支援を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人、ご家族の希望に応じ、ご家族だけでなく知人・友人との連絡希望にも対応している。また、離れて暮らすご家族へ手紙を出す支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事写真や季節の花、みんなで作った掲示物を飾るなど居心地良く過ごせるよう工夫に努めている。	民家構造の利点を生かした家庭的な採光や、導線的に無理のない家具・調度品の配置が行われている。季節の花や楽しい写真なども程よく飾られ、居心地のよい共用空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、食堂などその時のご本人の気分に合わせて思い思いの場所で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の好きなポスターや誕生カードを貼ったり、仏壇を持ってきている方もいる。居室の明りや温湿度に配慮して居心地良く過ごせるよう工夫に努めている。	利用者や家族の希望に応じて、位牌や家具調度品、テレビが置かれ、また、利用者の意向に沿った畳やベットが配置され居室づくりに工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの状態に応じて移動時に付き添い介助を行っている。玄関の階段昇降が困難な入居者が安全に移動出来るようスロープを設置する等工夫に努めている。		